

千退教・千高退教主権/千教組・千高教組共催
「処理水」放出問題から考える
原発講演会

高木仁三郎市民科学基金

事務局長 菅波 完

講師 菅波 完 (すげなみ たもつ)さん



2月4日(土) 県教育会館で千葉県退教と高退教の共催(千教組、高教組後援)による講演会が開催されました。講師は原子力市民委員会コーディネーターの菅波 完氏。

講演に先立ち、来賓で挨拶された日退教事務局長 平岡 良久さんから、

「1月1日に能登半島周辺で大地震があり、志賀町の志賀原発(運転停止中)にトラブル(変圧器の油漏れで外部からの電力供給を受けられなかった)が発生しているとの報道が伝えられた。岸田首相が実際に現地に入ったのが1月15日、それも1時間程度で帰京している(重大事故の可能性を感じたのか)。

同半島の被害甚大な珠洲市にも20世紀末

に原発設置の動きが起きたが、地元の石川県教組の仲間が中心となり粘り強い反対運動が続けられた。当時の珠洲市議会は議員全員が自民党の牙城であったが、反対派は議会に原発設置反対を表明する候補者を送り込み、2003年に設置を断念させた。現地の多くの市民は原発が無くて本当に良かったと胸をなでおろしている」

以上のような発言がなされました。

続いて講演が1時間半にわたってなされました。発言要旨は次の通りです。

一福島第一原発の汚染水対策・事故処理後の過酷な現実一

福島でのアルプス処理水はトリチウム以外の放射性物質を含む汚染水です。毎日100トンの汚染水を放出する海洋投棄計画について、政府は燃料デブリの取り出しや原発事故発生後30~40年で福島第一原発の廃炉を完了することを海洋放出の理由に挙げているが、何をもちて廃炉完了とするのかという基準すら決まっておらず、廃炉計画に全く現実性がない。投棄開始2カ月後の2023年10月25日に増設ALPS(アルプス)で、配管の洗浄作業を行っていた複数の作業員が高濃度の放射能を含む洗浄廃液をかぶり被爆するという事故が発生した(直近でも2024年2月7日に除染設備洗浄廃液漏えい事故…筆者加筆)。

このように原子力規制委員会に東京電力を監視し、指導する力量があるのか甚だ疑問。政府はG7で諸外国の理解を得たと言っているが、ドイツの女性環境大臣が、日本政府への提言で「トリチウムの半減期が12年であり、海洋放出前に『処理水』の扱いについて他の選択肢の方法を十分検討すべきである」と語っていたことがわかっている。(3面へ続く)

2.4 原発講演会 アンケート結果(その1)

アメリカでは処理の方法のひとつとして、トリチウムをコンクリートなどに混ぜて固化し、その上に土をかぶせるなどを行っている。事の重大さは「処理水」だけが問題ではなく、アルプスで濾過したあとの放射性物質の残滓(スラリー)を保管する方法が難しいという現実がある。さらにデブリの取り出しについても今のままでは時間軸として100年をみななければいけない…」と述べて、直ちに中長期ロードマップの見直しをすべきであるとの「原子力市民委員会」の見解を発表した。

講師が、時間が許せば語ろうとした残りの原稿には次のように記されている。

……「福島第一原子力発電所からは、放射性物質が大気や海洋にいまだに漏洩し続けている。原発事故時には、放射性物質が漏洩しないよう、『止める』『冷やす』『閉じ込める』を達成しなければならない。にもかかわらず、事故後12年を経過してもなお『閉じ込める』ことができていない。それどころか、政府・東京電力は、これまでの放射性物質の漏洩に加え、アルプス処理汚染水を投棄している。汚染に汚染を重ねる政府・東京電力の行為は許されない。加えて、政府は『アルプス処理水』を汚染水でないとして一種の言葉狩りを行ったり、海洋放出に対する批判や懸念をいわゆる『風評被害』であると断じて、国民、報道機関を委縮させている。政府のこのような行いは、原発事故による汚染を否定し、政府、東京電力自身の加害責任を、被害者を含む国民(一般公衆)に転嫁するものである。悪質なデマが許されないことは当然であるとしても、実際の被害、風評被害ともに被害発生責任は政府、東京電力にあり、被害者や国民にはない。」

文責 平良 文男(事務局長)

① 情報があふれる社会で、何を信じたらいいかと考え込むことが多い中、わかりやすい資料を用意していただき、考えを持つことが出来ました。原発については、はやく議論を進めていかなければならない重要な課題と感じています。しかし、そのことを議論しにくい政治的な問題のように思いますが、自分の生命や生活に大きく関わっている。自分の事として話し合うべき事なのに、と感じています。多くの「大人」の問題を先送りしていくような冷笑的な態度をどうやって改めればいいのか考えるきっかけになる講演会でした。ありがとうございました。

② 結局は、再稼働のため、原子力産業を守るための政策であることがわかりました。資源をどう確保して行くのか、安定した発展のためにどうしていかなければいけないのかを聞きたいと思いました。

③ 処理水の排出で、トリチウムの問題だけが取り上げられているが、そうではない問題があることがわかりました。また、原発の事故が想定外の津波によると断定されているが、いろいろな人間的な原因が関係していることがわかり、勉強になりました。

(4面に続く)

④ 東日本大震災による福島第一原発事故について、なぜ起こったのかがよくわかった。15メートルの津波が想定されていたにも拘わらず、対策が見送られてと知り、愕然とした。処理水が問題なのではなく、海洋放出により、更に新たな問題が起こること、膨大な廃棄物がでることなど、知らないことばかりで驚いた。これらのことは知らされていないのだろうかと思った。長い目で見て課題を直視し、本当に必要なことを行うべきだと思う。今、私たちに出来ることは、福島第一原発事故のことを忘れず、よく知り、考え、声を上げることだと思う。やはり、原発は怖いなど思った。貴重な講演を聴くことが出来ました。ありがとうございました。

文責 嶋田 文博(常任委員)

☆歓迎！新会員の紹介☆

「新風を吹き込んでください。
よろしく願います。」

- 千葉支部 吉井 哲さん
- 船橋支部 小林 武巳さん
- 〃 布施 達治さん
- 〃 中村 一雄さん
- 東葛支部 野口 裕子さん
- 君津支部 石井 泉さん
- 〃 佐々木郁子さん

お知らせ

①「3.20 さよなら原発全国集会」
3月20日(水) 春分の日
場所：代々木公園

◎高退教から上限2,000円の補助があります。
スローガンは「フクシマを忘れない！
原発再稼働を許さない！汚染水を流すな！」
13時30分からトークライブの発表です。

②カンパの現況

2月4日現在 賛同者29名 金額88,000円です。
さらなる協力をお願いします。

岐路23

知里幸恵(1903-1922、映画では北里
テル)の評伝映画『カムイのうた』

(監督 菅原浩志)を観た。その1
船橋支部幹事 長澤淑夫

20世紀初め、近代化(ある意味で植民地化)が進行する北海道が舞台。差別と困窮の中、「消ゆく民族では」と自分たちでさえ考えてしまう状況を強いられたアイヌ民族の映画である。ユーカラ伝承者を叔母に持つテルはアイヌ語と日本語に類い稀な才能をみせた。勉学はよく出来たが、差別ゆえに高等女学校に入学できず、心なくも進学した旭川区立女子職業学校では同級生による差別に遭う。

そんな時、アイヌユーカラを世界に誇る素晴らしい口承文芸と考へ、言語学者金田一京助が祖母モナシノウク(映画では叔母イヌエマツ)を訪ねてきた。そこから叔母、15才のテルと金田一との交流が始まる。ユーカラをローマ字で表記し、同時に日本語に訳す仕事を金田一の求めに応じて行う中、彼の勧めで東京の金田一宅に移り、テルは翻訳を続けた。しかし心臓の悪いテルは病に倒れ19才という若さで亡くなってしまふ。遺作『アイヌ神謡集』(郷土研究社、1923年)は、アイヌへの愛と憂いに満ちた素晴らしい彼女自身の序文とともに出版された。惜しまれる死とはこのことだ。

(編集後記)「高退教だより第180号」を送ります。

(編集係 小鳥)

高退教だより

2024年3月15日
No. 180

発行 千葉県高等学校退職教職員の会
千葉市中央区中央4-13-10 千葉県高教組気付 Tel 043-227-1347

「千高退教」に加入しているだけで「強い力」です！

(2024.2.20 越川会長への電話インタビュー 要約)



越川会長

(Q1)今年度は、定年延長で定年退職者がいない年になります。あらためて、千高退教がなぜ必要かをお聞きします。その前に会長と千高退教と

の関わりからお話します。

(A1)千高退教に入りましたのは、故 渡辺隆 千高教組元委員長の紹介によります。その後、30年、40年、50年の記念誌出版に関わって、私自身長くなりました。(越川会長は1996年から幹事に、2015年から第7代会長に就任)

(Q2)千高退教(千葉県高等学校退職教職員の会 1972年結成)はどのような組織ですか？

(A2)千高退教に入りますと、日退教(1973年結成。日本退職教職員協議会)、さらに退職者連合(1991年結成。日本高齢・退職者団体連合⇒2015年日本退職者連合に改称)に所属することになります。退職者連合委員長が政府機関の委員になり、全国的な要求として様々な方策への関わりを可能にしています。これは千高退教に入ることが非常に有効な「出費」であるということです。よく「私は千高退教に入って、何もしてない」という方がおりますけれども、そんなことはありません、千高退教に入っていること自体が強い力になっているということです。

(Q3) 会長に就任するまでの活動は？

(A3) 私は、千高退教加入後、日退教の本部に4年間勤務しました。そこで福祉部会長を務めました。その間、いろいろ改革をしました。「日

退教だより」に発行責任者を、私の提案で入れさせました。また日退教主催の行動に保険をかけ、参加して事故にあった場合、若干の保障を可能にしました。これで万全というわけではないけれども、少しは安心につながると思います。

その後の改革は、今の竹田邦明・日退教会長が事務局長のときに行いました。竹田会長は、ものすごい勉強家で、私は高く評価しています。福祉部会員の個性を伸ばすなど、様々な努力をされました。

(Q4) これまで取り組んできた退職者・高齢者問題は何か？

(A4) やはり社会保険や年金問題です。言ったらすぐ実現するという事はできかねますが、退職者連合の会長が努力したのは、70~75歳の医療費負担1割から2割に上げる問題を、一度に上げるのではなく、70歳から75歳まで年度進行にしました。クルーガー(独語 聡明な、賢い)な方策として、一度に値上げしようという政府提案を、退職者連合の会長は反対し、年度進行に変えました。また、以前書きましたが、男性の遺族年金を実現しました。女性には遺族年金があったのですが、男性にも遺族年金を作ることを厚労省へ提案し、実現できました。

(Q5) 最近感じることは、何か？

(A5) 自分が病気になって、初めて感じたけれども、介護保険をもう少し何とかしなきゃいけない。介護認定は全然実態にあっていない。例えば排せつの問題について、介護保険は対応していない。そのことを含め、いろいろな制度に関心を持つことが大切だと思っています。

文責 小鳥吉夫(常任委員)